

「意味」のレベルから見た小学校英語移行期教材分析

永 倉 由 里

Analysis of Elementary School English Materials for the
Transitional Period Using the Scale of Meaningfulness

Yuri NAGAKURA

2018年11月7日受理

抄 録

学習指導要領「外国語活動・外国語」を読み解き、移行期の30, 31年度用教材『Let's try!』『We can!』の内容と学習指導案をそれ以前の『Hi, friends!』と比較する。それにより「コア・カリキュラム」で強調されている児童の言語習得の特徴を踏まえた英語指導とはどのようなものなのかを検討し、その実践にはこれまでの学習観・指導観を見つめ直す必要があることを確認する。

次に、分析結果を踏まえて、小学校教員を目指す学生の指導に際し配慮すべき点を整理する。

キーワード：小学校英語教育、教材分析、学習指導案、単元計画、第二言語習得

1. はじめに

学習指導要領の本格実施に向け様々な動きが見られるが、特に英語教育においては、いち早く「コア・カリキュラム」が示され、平成31年度からはこれに則ったシラバスを作成しそれに基づく授業を展開することになる。

小学校現場では、移行期に当たる30, 31年度用の教材として『Let's try!』『We can!』が提供され、それらに準じたデジタル教材、指導書、単元計画、学習指導案、ワークシート、映像資料等が使用可能になっている。

次章では、移行期用教材『Let's try!』『We can!』とそれ以前の『Hi, friends!』を比較し、「コア・カリキュラム」で強調された小学校で行われるべき第二言語習得理論を踏まえた英語指導とはどんなものなのかを、コミュニケーション活動の「意味」のレベル（三浦、2003）に基づき、分析する。

続いて、小学校教員を目指す学生への指導に際し配慮すべき点を整理する。

2. 外国語科と外国語活動 一文部科学省学習指導案例の単元構成から一

ここでは、文部科学省がウェブ上で公開している学習指導案例を基に、外国語活動(小学3, 4年生)および外国語科(小学5, 6年生)の学習内容を分析する。

分析に当たっては、学習指導要領で外国語と外国語活動の「目標」を示す文言に則した尺度としてコミュニケーション活動の「意味」のレベルを用いる。

2. 1 分析方法

学習指導要領では、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成するために、外国語による聞くこと、[読むこと、] 話すこと、[書くこと]の言語活動を通して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるよう指針が示されている。見方・考え方を働かせるためには、自分の考えや気持ちを伝え合うための場面・状況が設定され、コミュニケーションを行う意味・目的が生じていることが条件となる。さらに、従来の暗記中心の学習スタイルではなく、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や表現を想起しながら使用練習を行うという第二言語習得の理論に即したプロセスが推奨されている。

学習指導要領の4技能[5領域]すなわち聞くこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、読むこと、書くこと(知識・技能)、イ(=思考力・判断力・表現力等)、ウ(=学びに向かう力・人間力等)で示されている。一方、三浦(2003)が提唱するコミュニケーションにおける「意味」のレベル(図1)は、言語活動の場面や状況の設定によりコミュニケーションを行う意味・目的がどの程度生じるかを表しており、上記のア～ウの活動を分析するのに適している。

ここで、学習指導要領の4技能[5領域]すなわち聞くこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、読むこと、書くこと(知識・技能)、イ(=思考力・判断力・表現力等)、ウ(=学びに向かう力・人間力等)と三浦(2003)のコミュニケーションにおける意味のレベルの兼ね合いを示す。

各レベルについて小学校でよく行われる活動を当てはめると以下ようになる。

レベル0 = 語彙の発音練習や繰り返し練習

レベル1 = いわゆるパターン練習(意味・目的はほとんどない)

レベル2 = ゲーム等におけるパターン練習(意味・目的がいくらか生じている)

レベル3 = 適切な場面設定により行う意味・目的のあるコミュニケーション活動

レベル4 = [母語で行う実生活の中で生じるような] 即興性を伴い、行う目的・必然性があり、相互理解や関係性の構築につながるコミュニケーション活動

一般的に、Small Talk はレベル4となるが、小学校においては児童に身につけてもらいたい言語表現を意識して織り込むためレベル3とした(表1、表2参照)。

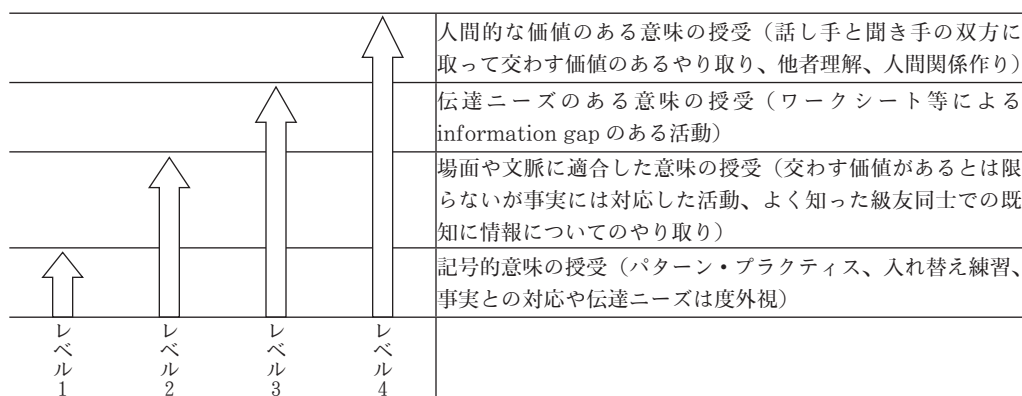


図1 コミュニケーション活動における「意味」の4レベル (三浦、2003)

表1 各領域の目標とコミュニケーションにおける「意味」のレベル (中学年)

外国語活動	3領域の目標	コミュニケーションにおける「意味」のレベル
聞くこと	ア 聞きとる (+予測・推測)	レベル0 絵カードを見てその発音を聞く レベル1 パターンの例を聞く
	イ 聞いて意味がわかる	レベル2 ルールのあるパターンの例を聞く レベル3 Small Talkなどを聞く
	ウ 聞いてどの文字かわかる	レベル0 アルファベットを聞く
話すこと [やり取り]	ア 基本的な表現 (やり取り)	レベル1 パターン練習 レベル2 ルールのあるパターン練習≒ゲーム
	イ 自分のことを伝え合う	レベル3 条件下でのパターン応用演習
	ウ 方略を使ってなんとか伝え合う	レベル3 Free Talkなどの即興的な活動
話すこと [発表]	ア 基本的な表現 (発表)	レベル1 パターン練習 レベル2 パターン+入れ替え練習
	イ 自分のことを伝える	レベル3 条件下でのパターン応用演習
	ウ 方略を使ってなんとか伝える	レベル3 Show & Tell, Speechなどの活動

表2 各領域の目標とコミュニケーションにおける「意味」のレベル (高学年)

外国語	5領域の目標	コミュニケーションにおける「意味」のレベル
聞くこと	ア 聞きとる (+予測・推測)	レベル1 絵カードを見てその発音を聞く レベル2 パターンの例を聞く
	イ 聞いて意味がわかる	レベル2 ルールのあるパターンの例を聞く レベル3 Small Talkなどを聞く
	ウ 聞いて話の意味内容がわかる	レベル3 Small Talk, Storyなどを聞く
読むこと	ア 活字体の文字を発音できる	レベル0 アルファベットを読む
	イ 慣れ親しんだ表現の意味がわかる	レベル1 語句を読む
話すこと [やり取り]	ア 基本的な表現 (やり取り)	レベル1 パターン練習 レベル2 ルールのあるパターン練習≒ゲーム
	イ 自分のことを伝え合う	レベル3 条件下でのパターン応用演習
	ウ 方略を使ってなんとか伝え合う	レベル3 Free Talkなどの即興的な活動
話すこと [発表]	ア 基本的な表現 (やり取り)	レベル1 パターン練習 レベル2 パターン+入れ替え練習
	イ 自分のことを伝え合う	レベル3 条件下でのパターン応用演習
	ウ 方略を使ってなんとか伝え合う	レベル3 Show & Tell, Speechなどの活動
書くこと	ア 慣れ親しんだ表現が書ける	レベル1~2 語句を書く

2. 2 『Hi, friends!』と『Let's try!』の比較

一般に、移行期に入った2018年度に3, 4年生で使用される『Let's try!』は、2017年度まで5, 6年生の外国語活動で使用されていた『Hi, friends!』とほぼ同様だと認識されている傾向がある。どちらでも中心的に扱う言語表現である like を扱う『Hi, friends! 1』Lesson 5 What do you like? と『Let's try! 1』Unit 5 What do you like? を比較する。それぞれ文部科学省のウェブ上に公開されている同単元の学習指導案を参照し、挨拶と振り返りを除く活動とその時間配分を示す(図2, 図3)。コミュニケーションの「意味」のレベルが0と1は塗りつぶしなし、2以上はレベルが高い方が濃く見えるように塗りつぶしを施した。表3は『Let's try! 1』Unit 5 What do you like? について、表1を用いて目標とする領域とコミュニケーションにおける「意味」のレベルを整理したものである。

第1時	第2時	第3時	第4時
○「色を探そう」 教師が言う色を探す	○ボインティングゲーム 教師が言うTシャツを探す	Let's Chant	Let's Chant What food ^他 do you like?
Let's Listen 1 該当するTシャツを選ぶ	○「ミッシングゲーム」	Let's Listen 3 Tシャツの模様	○ラッキーカードゲーム 色形カルタ
Let's Listen 2 誰がどのTシャツか	Let's Chant	Let's Play 1 やり取り→Tシャツ作り	Activity インタビュー
○ボインティングゲーム 教師が言うTシャツを探す	○ラッキーカードゲーム 色形カルタ	○カテゴリー分け カードで確認	○他己紹介をしよう 発表
Let's Chant What color do you like?		Let's Chant What food ^他 do you like?	

図2 『Hi, friends! 1』Lesson 5 の活動内容

など、「にわか仕込み」だと感じられることが少なくない。

我が国のような日常生活において英語を使用する必要性・必然性に乏しいEFL環境においては、教室での学習効果に期待が高まるわけだが、限られた条件下で、あるべき言語習得のプロセスをたどれるよう指導計画を立てるのは容易ではない。『Let's try! 1』Unit 5の活動内容を見ると、これらの点が改善されていることがわかる。

これを見ると、まさに似て非なるものであることがわかる。前者は、語彙や表現を単純に繰り返すようなゲームに代表される活動が多い。単元の後半では一足飛びにやり取りを行わせようとしている感がある。言語習得のプロセスという観点からすると無理があると言わざるを得ない。

研究授業等では、第4時のやり取りの場面を拝見することが多いが、使用すべき表現をチラチラ見ながら活動するな

第1時	第2時	第3時	第4時
○Small Talk 給食の話題から食べ物こ ついでのやり取り ②③③	○「ミッシングゲーム」 ①	Let's Chant ●	Let's Chant ●
Let's Play 「おはじきゲーム」 ②	Let's Listen 1 人物の好きなものを 線で結ぶ ②	○ステレオゲーム What ~ do you like? ②②②	Activity 2 好きなものを尋ねあう ②②②
○Small Talk What ~ do you like? やり取りのモデル ②③③	Let's Watch and Think 「好きなもの」 ②③③	Activity 1 予想して好きなものを 尋ねあう ②②②	○Who am I?クイズ ②②②
Let's Chant ●	○ペアで尋ね合おう ②②②	Activity 2 好きなものを尋ねあう ②②②	
○Goodbye Song ●	○Goodbye Song	○Goodbye Song	○Goodbye Song

図3『Let's try! 1』Unit 5の活動内容

まず、目につくのが見方・考え方を働かせながら耳を傾け内容を捉えようとする活動である。映像やポスター、実物などからヒントを得、これまでの学習・経験と結び付けたり、推測したりしながら、話し手が伝えた意味・内容を捉えるよう促すものである。しかも表3が示す通り、かなりの時間を配している。終盤の意味のあるやり取りにつながるよう、活動につながりと流れがあり、その分ゲーム的な活動が激減している。

表3 単元構成における言語活動の目標とコミュニケーションにおける「意味」のレベル(1)『Let's try! 1』Unit 5 What do you like?

時	児童の活動	目標	真正性	概要	分
1	挨拶	やり取り	ア	ほぼ型通りの練習	2
	Oral Introduction (給食~好きな食べ物)	聞くこと	イ	かなりリアルな聞き取り	13
	おはじきゲーム	聞くこと	ア	単語聞き取り	8
	ALTとHLTのやり取り例示	聞くこと	イ	かなりリアルな聞き取り	10
	チャンツ What do you like?	やり取り	ア	パターン練習	5
	振り返り				5
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア	歌	2
2	挨拶	やり取り	ア	ほぼ型通りの練習	2
	食べ物 words 復習→ミッシングゲーム	話すこと	ア	単語リピート	10
	Let's Listen (予想→線でむすぶ)	聞くこと	ア	少しリアルな聞き取り	8
	チャンツ What do you like?	やり取り	ア	パターン練習	4
	Let's Watch and Think	聞くこと	イ	かなりリアルな聞き取り	8
	ペアで尋ね合おう	やり取り	ア	少しリアルなやり取り	8
	振り返り				3
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア	歌	2

3	挨拶	やり取り	ア	レベル2	ほぼ型通りの練習	2
	チャッツ What do you like?	やり取り	ア	レベル1	パターン練習	4
	ステレオ・ゲーム	聞くこと	ア	レベル2	少しリアルな聞き取り	10
	Activity 1 (予想→Q&A)	やり取り	ア	レベル2	少しリアルなやり取り	15
	Activity 2 (Q&A)	やり取り	ア	レベル2	少しリアルなやり取り	7
	振り返り					5
歌 Goodbye Song	話すこと	ア	レベル0	歌	2	
4	挨拶	やり取り	ア	レベル2	ほぼ型通りの練習	2
	チャッツ What do you like?	やり取り	ア	レベル1	パターン練習	4
	Activity 2 (Q&A)	やり取り	ア	レベル2	少しリアルなやり取り	20
	Who am I?	やり取り	イ	レベル3	かなりリアルなやり取り	12
	振り返り					5
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア	レベル0	歌	2

コミュニケーションにおける「意味」のレベルについては、紙幅の都合もあり、「真正性」または「リアルさの度合い(=リアル度)」といった表現も使うことにする。

先ほども述べたように、ゲームが減り、Small Talk や Let's Watch and Think と行った行う目的や意味のあるレベル3の活動に時間が割かれ、つながりを持って後半の「やり取り」へと発展していく。前半は児童にとって見方・考え方を働かせながら「聞くこと」が多くなるため、聞かせる英語の量と質が問題となってくる。

同様に「～が欲しい」という表現を扱う『Hi, friends! 1』Lesson 9 と『Let's try! 2』Unit 7 を比較したところ、上記と共通した相違が見られた(図4, 図5 および表4 参照)。

どちらも繰り返し Let's Chant が行われている。デジタル教材を使えば、クリッカー一つで一定の活動が行えるが、工夫次第で「意味」のレベルを段階的に上げ、レベル3の「やり取り」につなげることもできる。

第1時	第2時	第3時	第4時
Let's Listen 1 さくら達のパフェを選ぶ ?	Let's Listen 2 注文したものを選ぶ ?	Let's Chant ●	Let's Chant ●
○ピンゴゲーム 該当するTシャツを選ぶ ?	Let's Chant ●	Activity 1 ランチメニューを作る 教師とのやり取り ◎◎◎	Activity 2 給食についてのやり取り ◎◎◎
Let's Play 友達のパフェを作る ワークシート ◎◎◎	○ピンゴゲーム 該当するTシャツを選ぶ ?		○スペシャルランチを作ろう インタビュー ◎◎◎
	○仲間探しゲーム 絵カード集め ◎◎◎	Activity 2 世界の給食インタビュー 聞き取り ?	
Let's Listen 2 注文したものを選ぶ ?			

図4 『Hi, friends! 1』Lesson 9 の活動内容

第1時	第2時	第3時	第4時
Let's Chant アルファベット	Let's Chant	Let's Chant	Let's Chant
○Small Talk 何かあるかな 食材	Activity 1 フルーツパフェを作ろう 児童同士	Activity 1 フルーツパフェを紹介しよう 教師とのやり取り 児童同士	Let's Listen 2 缶詰イラストと文字を結び
Let's Watch and Think 世界の市場			
Activity 1 フルーツパフェを作ろう 教師と代表児童	Let's Listen 1 さくら達のパフェを選ぶ		Activity 1 オリジナルピザを作ろう
Let's Chant			
○Goodbye Song	○Goodbye Song	○Goodbye Song	○Goodbye Song

具体的には、教師の指示で語彙を入れ替えたり、各自にとって本当のことを伝えるよう語彙を選択させたりする。相手の発話に対して合の手を挟んだり、ポインティング・ゲームなどと絡めたりするのもよい。楽しさと「意味」のレベルに配慮することにより、児童は各単元の終盤に行う意味のある言語活動に積極的に参加できるようになる。

図5 『Let's try! 2』 Unit 7 の活動内容

表4 単元構成における言語活動の目標とコミュニケーションにおける「意味」のレベル(2) 『Let's try! 2』 4年生 Unit 7 What do you want?

時	児童の活動	目標	真正性	概要	分
1	挨拶	やり取り	ア レベル2		1
	Alphabet Chant	話すこと	ア レベル0		1
	Oral Introduction (何かあるかな)	聞くこと	イ レベル3	かなりリアルな聞き取り	6
	Let's Watch and Think	聞くこと	イ レベル3	かなりリアルな聞き取り	7
	Activity 1 フルーツパフェを作ろう	やり取り	ア レベル2	少しリアルなやり取り	20
	チャンツ What do you want?	やり取り	ア レベル1	パターン練習	5
	振り返り				3
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア レベル0	歌	2
2	挨拶	やり取り	ア レベル2		2
	チャンツ What do you want?	やり取り	ア レベル1	パターン練習	3
	Activity 1 フルーツパフェを作ろう	やり取り	ア レベル2	少しリアルなやり取り	25
	Let's Listen 1	聞くこと	ア レベル2	少しリアルな聞き取り	10
	振り返り				3
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア レベル0	歌	2

「意味」のレベルから見た小学校英語移行期教材分析〈論文〉

3	挨拶	やり取り	ア	レベル 2		2
	チャンツ What do you want?	やり取り	ア	レベル 1	パターン練習	3
	Activity 1 フルーツパフェを紹介しよう	やり取り	ア	レベル 2	少しリアルなやり取り	35
	振り返り					3
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア	レベル 0	歌	2
4	挨拶	やり取り	ア	レベル 2		1
	チャンツ What do you want?	やり取り	ア	レベル 1	パターン練習	2
	Let's Listen 2	聞くこと	ア	レベル 2	少しリアルな聞き取り	10
	Activity 2 オリジナルピザを作ろう	やり取り	ア	レベル 2	少しリアルなやり取り	27
	振り返り					3
	歌 Goodbye Song	話すこと	ア	レベル 0	歌	2
5	挨拶	やり取り	ア	レベル 2		2
	チャンツ What do you want?	やり取り	ア	レベル 1	パターン練習	2
	Activity 2 オリジナルピザを作ろう	やり取り	イ	レベル 3	少しリアルなやり取り	27
	振り返り					3
	歌 Goodbye Song 歌	話すこと	ア	レベル 0	歌	2

2. 3 『Hi, friends!』と『We can!』の比較

次に What time do you get up? を扱う『Hi, friends! 2』Lesson 6 と『We can! 1』Unit 4 Lesson 6 を比較する。前者は週 1 時間の外国語活動で、後者は週 2 時間の外国語科である。文字の導入が注目されているが、前節での分析と同様、児童期の言語

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
Let's Play 1 「ナンバーゲーム」 ●1-60 1-60	Let's Play 1 「ナンバーゲーム」 ● 1-60	Let's Play 1 「ナンバーゲーム」 ● 1-60	Let's Chant ●	Let's Chant ●
○「何時か当てよう」 教師が両腕で示す 時刻を答える。 ●	○「メモリーゲーム」 ♪ カード並べ	Let's Chant ●	○チェーンゲーム What time do you get up?	Activity 2 生活時間を書き込み、 やり取り
Let's Listen 1 時刻を書き込む ♪	Let's Listen 2 時刻を書き込む ♪	Let's Listen 3 世界の時刻を聞き取る ♪		◎◎◎
○ジェスチャーゲーム 動作の表現 ●			○友達的生活時刻を知らう インタビュー (ワークシート) ◎◎◎	○自分の一日と外国の 時刻を比較 発表 ◎◎◎
Let's Play 2 「おはじきゲーム」 動作の表現 ♪	Activity 1 予想してインタビュー ◎◎◎			◎◎◎
		○ステレオゲーム What time do you get up? get up ~	New Yorkの生活と比べよう インタビュー (ワークシート) ◎◎◎	
Let's Chant ●	Let's Chant ●	◎◎◎◎◎		

図 6 『Hi, friends! 2』 Lesson 6 の活動内容

習得の特徴に配慮し、「聞く」から「話す」へと移行し、そのプロセスにおいては見方・考え方を働かせる活動がつながりを持って展開するように工夫されている。

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
Let's Watch and Think 1 世界の子どもたちの生活 について ②③④	○Small Talk 「朝食」 ②③④ Let's Play 1 ポインティングゲーム 頻度の副詞 ○マジョリティー調査 Do you get up at ~? always, often, some times	Let's Chant ● Let's Listen 1 人物の言葉を聞いて顔で答へ ② Let's Play 3 先生の白話をたずねる ②③④	○Small Talk 「日課」 ②③④ Activity 家での役割を尋ね合う ②③④	○Small Talk 「すること、しないこと」 ②③④ Let's Chant ● Let's Listen 2 誰の日課か線で結ぶ ② Let's Watch and Think 2 「家での役割」 ②③④	Let's Chant ● Let's Watch and Think 2 「家での役割」 ②③④ ○発表の準備 「自分の日常生活」	○Small Talk 「教師の一日」 ②③④ Let's Chant ● Let's Listen 3 誰の日課か線で結ぶ ② ○ペアで伝え合おう 日常生活(+頻度) ②③④	Let's Chant ● ○自分の生活を頻度も 含めて紹介する 発表 ②③④ ○Sounds and Letters ④ ○Sounds and Letters ④ ○Sounds and Letters ④ Story Time 絵本の読み聞かせ ②③④
○フェイント・リポート ②③	○フェイント・リポート ②③④	○フェイント・リポート ②③④	○フェイント・リポート ②③④	○フェイント・リポート ②③④	○フェイント・リポート ②③④	○フェイント・リポート ②③④	○フェイント・リポート ②③④
○Buzz Game ●	○Buzz Game ●	○Buzz Game ●	○Buzz Game ●	○Buzz Game ●	○Buzz Game ●	○Buzz Game ●	○Buzz Game ●
Let's Chant ●	Let's Chant ●	Let's Chant ●	Let's Chant ●	Let's Chant ●	Let's Chant ●	Let's Chant ●	Let's Chant ●
○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④
○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④	○Sounds and Letters ④

図7『We can! 1』Unit 4の活動内容

表5 単元構成における言語活動の目標とコミュニケーションにおける「意味」のレベル(3)『We can! 1』Unit 4 What time do you get up?

時	児童の活動	目標	真正性	概要	分
1	挨拶	やり取り	ア レベル2	かなりリアルな聞き取り かなりリアルなやり取り パターン練習 Worksheet 4-7	3
	Let's Watch and Think	聞くこと	イ レベル3		7
	同上	やり取り	イ レベル3		7
	フェイント・リポート0	聞くこと	ア レベル0		5
	Buzz Game	話すこと	ア レベル0		5
	チャンツ What time do you get up?	やり取り	ア レベル1		5
	Sounds & Letters	書くこと	ア レベル0		10
振り返り				3	
2	挨拶	やり取り	ア レベル2	かなりリアルな聞き取り 少しリアルな聞き取り パターン練習 かなりリアルなやり取り Worksheet 4-8	1
	Small Talk (朝食)	聞くこと	イ レベル3		7
	Let's Play 1 ポインティング・ゲーム	聞くこと	ア レベル0		3
	マジョリティー調査	聞くこと	ア レベル2		10
	チャンツ What time do you get up?	やり取り	ア レベル1		5
	Let's Play 2 Q & A	やり取り	イ レベル3		10
	Sounds & Letters	書くこと	ア レベル0		6
振り返り				3	

「意味」のレベルから見た小学校英語移行期教材分析〈論文〉

3	挨拶 Let's Listen 1 日課を聞いて線でむすぶ Let's Play 3 先生の日課を聞き線でむすぶ Let's Read and Write Sounds & Letters 振り返り	やり取り 聞くこと 聞くこと 書くこと 書くこと	ア ア ア ア ア	レベル 2 レベル 2 レベル 2 レベル 0 レベル 0	少しリアルな聞き取り 少しリアルな聞き取り Worksheet 4-2 Worksheet 4-9	3 8 15 6 6 3
4	挨拶 Small Talk (日課) Activity 家での役割 チャンツ What time do you get up? Let's Read and Write Sounds & Letters 振り返り	やり取り 聞くこと やり取り やり取り 書くこと 書くこと	ア イ ア ア ア ア	レベル 2 レベル 3 レベル 2 レベル 1 レベル 0 レベル 0	かなりリアルな聞き取り 少しリアルなやり取り パターン練習 Worksheet 4-3 Worksheet 4-10	1 6 20 5 3 6 4
5	挨拶 Small Talk (いつもすることしないこと) チャンツ What time do you get up? Let's Listen 2 誰の日課か線でむすぶ Let's Watch and Think 2 Let's Read and Write Sounds & Letters 振り返り	やり取り 聞くこと やり取り 聞くこと 聞くこと 書くこと 書くこと	ア イ ア ア イ ア ア	レベル 2 レベル 3 レベル 1 レベル 2 レベル 3 レベル 0 レベル 0	かなりリアルな聞き取り パターン練習 少しリアルな聞き取り かなりリアルな聞き取り Worksheet 4-4 Worksheet 4-11	1 4 3 10 8 8 6 5
6	挨拶 チャンツ What time do you get up? Let's Watch and Think 2 Let's Read and Write スピーチの準備 Sounds & Letters Sounds & Letters 振り返り	やり取り やり取り 聞くこと 書くこと 書くこと 書くこと 書くこと	ア ア イ ア イ ア ア	レベル 2 レベル 1 レベル 3 レベル 0 レベル 1 レベル 0 レベル 0	パターン練習 かなりリアルな聞き取り Worksheet 4-5,6 Worksheet 4-5 Worksheet 4-12 デジタル 道具箱	3 3 8 8 3 6 10 4
7	挨拶 Small Talk (一日の生活) チャンツ What time do you get up? Let's Listen 3 日課か線でむすぶ ペアで伝え合おう Sounds & Letters 振り返り	やり取り 聞くこと やり取り 聞くこと 話すこと 書くこと	ア イ ア ア イ ア	レベル 2 レベル 3 レベル 1 レベル 2 レベル 3 レベル 0	かなりリアルな聞き取り パターン練習 少しリアルな聞き取り かなりリアルな発表 Worksheet 4-13	1 4 5 10 14 6 5
8	挨拶 チャンツ What time do you get up? 自分の日常を頻度も含めて紹介する Sounds & Letters Sounds & Letters Story Time 振り返り	やり取り やり取り 話すこと 書くこと 書くこと 聞くこと	ア ア イ ア ア ア	レベル 2 レベル 1 レベル 3 レベル 0 レベル 0 レベル 2	パターン練習 かなりリアルな発表 Worksheet 4-14 デジタル 道具箱 少しリアルな聞き取り	3 3 20 6 5 5 3

移行期に入り、5年生、6年生に対する配当時間は50～70時間とされているが、その合冊テキストとそれぞれのデジタル教材ならびにワークシートを活用し、どのような指導計画を立て実践しているかは、教育委員会または小学校によって様々なようである。目の前の児童の実態に寄り添いながら日々の実践を行い、同時に完全実施となる2020年度の授業の有り様をイメージしそれに備える必要がある。

第18時	第28時	第38時	第48時
○ジェスチャークイズ (職業) ㊦㊧	○カード取りゲーム ㊦	Let's Chant ㊦	Let's Chant ㊦
○キーワードゲーム ㊦	○ラッキーカードゲーム ㊦	○ステレオゲーム ㊦㊦㊦㊦	Activity 夢宣言 発表 ㊦
	Let's Listen 時刻を書き込む ㊦	○チェーンゲーム	
○ビンゴゲーム ㊦	Let's Chant ㊦	Let's Play ㊦㊦㊦㊦	
○ボインディングゲーム ㊦	○ミッションゲーム ㊦㊧	Activity ㊦㊦㊦㊦	

図8 『Hi, friends! 2』 Lesson 8 What do you want to be? の活動内容

第11時	第28時	第38時	第48時	第58時	第68時	第78時	第88時
○Small Talk 行きたい国とその理由 ㊦㊦㊧	○Small Talk 行きたい国とその理由 ㊦㊦㊧	○Small Talk 就きたい職業とその理由 ㊦㊦㊧	○Let's Listen ㊦㊦	○Small Talk 就きたい職業とその理由 ㊦㊦㊧	Let's Read and Write 2 ㊦	○Let's Talk ㊦㊦㊦	Let's Read ㊦
Let's Watch and Think 1 ㊦㊦㊧	Let's Chant ㊦	Let's Chant ㊦	スリーヒント カルタ ㊦㊦㊦	Let's Chant ㊦	○話し読み ㊦	Let's Write ㊦	Let's Watch and Think 4 ㊦㊦㊧
Let's play Pointing Game ㊦	先生の夢を知ろう ㊦	Let's Watch and Think 3 ㊦㊦㊧	○Let's Talk ㊦㊦㊦	先生の夢をもっと知ろう ㊦			○Activity ㊦㊦㊦
Let's Read and Write 1 ㊦	ペアで伝え合おう ㊦㊦㊦	○Let's Talk ㊦㊦㊦	Let's Read and Write 2 ㊦	○Sounds and Letters ㊦	○Sounds and Letters ㊦		

図9 『We can! 2』 Unit 8 What do you want to be? の活動内容

表6 単元構成における言語活動の目標とコミュニケーションにおける「意味」のレベル(4)『We can! 2』 Unit 8 What do you want to be?

時	児童の活動	目標	真正性	概要	分
1	挨拶	やり取り	ア	レベル2	1
	Small Talk (行きたい国とその理由)	やり取り	イ	レベル3	9
	Let's Watch and Think 1	聞くこと	イ	レベル3	15
	Let's Play Pointing Game	聞くこと	ア	レベル0	10
	Let's Read and Write 1	書くこと	ア	レベル0	5
	単元目標「将来の夢(スピーチ)」の確認 振り返り				Worksheet 8-1 2 3
2	挨拶	やり取り	ア	レベル2	1
	Small Talk (行きたい国とその理由)	やり取り	イ	レベル3	9
	チャンツ What do you want to be?	やり取り	ア	レベル1	5
	Let's Watch and Think 2	聞くこと	イ	レベル3	10
	先生の夢を知ろう	聞くこと	イ	レベル3	10
	ペアで伝え合おう 振り返り	やり取り	ア	レベル2	5 5
3	挨拶	やり取り	ア	レベル2	2
	Small Talk (就きたい職業とその理由)	やり取り	イ	レベル3	10
	チャンツ What do you want to be?	やり取り	ア	レベル1	5
	Let's Watch and Think 3	聞くこと	イ	レベル3	15
	Let's Talk	やり取り	イ	レベル3	10
	振り返り				3
4	挨拶	やり取り	ア	レベル2	2
	Let's Listen 将来の夢を聞いてメモする	聞くこと	ア	レベル2	10
	3ヒント・カルタ	やり取り	ア	レベル2	10
	Let's Talk	やり取り	イ	レベル3	12
	Let's Read and Write 2	書くこと	ア	レベル0	5
	振り返り				Worksheet 8-2,3 3
5	挨拶	やり取り	ア	レベル2	2
	Small Talk (就きたい職業とその理由)	やり取り	イ	レベル3	9
	チャンツ What do you want to be?	やり取り	ア	レベル1	4
	先生の夢をもっと知ろう	聞くこと	イ	レベル3	7
	Activity	やり取り	イ	レベル3	10
	Let's Read and Write 2	書くこと	ア	レベル1	5
Sounds & Letters	書くこと	ア	レベル0	5	
振り返り				Worksheet 8-4 Worksheet 8-6 3	
6	挨拶	やり取り	ア	レベル2	2
	Let's Read and Write 2	書くこと	ア	レベル0	20
	Let's Read 回し読み	読むこと		レベル2	15
	Sounds & Letters	書くこと	ア	レベル0	5
振り返り				Worksheet 8-1~8-6 少しリアルな読み取り Worksheet 8-7 3	
7	挨拶	やり取り	ア	レベル2	2
	Let's Talk	やり取り	イ	レベル3	20
	Let's Write	書くこと	イ	レベル2	20
	振り返り				3

8	挨拶	やり取り	ア	レベル2		2
	Let's Read	読むこと		レベル2	少しリアルな読み取り	14
	Let's Watch and Think 4	聞くこと	イ	レベル3	かなりリアルな聞き取り	15
	Story Time	聞くこと	ア	レベル2	少しリアルな聞き取り	10
	振り返り					4

6年生の『We can! 2』Unit 8 What do you want to be? では、将来の夢について「話すこと（発表）」が目標とされ、その準備段階で「書くこと」においてもレベル2の活動が行われる。書き写すことから少しずつ進めてきた「書くこと」に、児童の考えや夢を反映させ、伝えたいことを書く活動である。書くことは言語表現の定着や正誤認識さらには自律的学習にもつながるため、中学校での学びにつながる。

さて、考えや夢を書く活動を行う際に壁となるのは、我が国の文化的特徴とも言えるコミュニケーションにおける態度である。自分の意見や考えを明示する習慣が乏しく、控えめな態度が美德とされる。賛成とも反対ともつかない「あいまいさ」「つかみどころの無さ」が敵を作らぬ世渡り術と捉えている者もいるだろう。

こうした独特のコミュニケーション・スタイルは、学習の態度にも大きく影響している。近年ではこれらが脳の働き方や行動様式、動機づけなどに少なからず影響を及ぼしていることが注目されている。主体的に学び続ける資質を養うためには、教科の枠を超えた検討と取り組みが必要であろう。

ではここで、これまで取り上げた各単元で大きな割合を占める「聞くこと」「話すこと[やり取り]」の各単元におけるコミュニケーションの「意味」のレベルを注目し、レベル3とレベル2の合計時間数（分）を比較してみる（図10）。

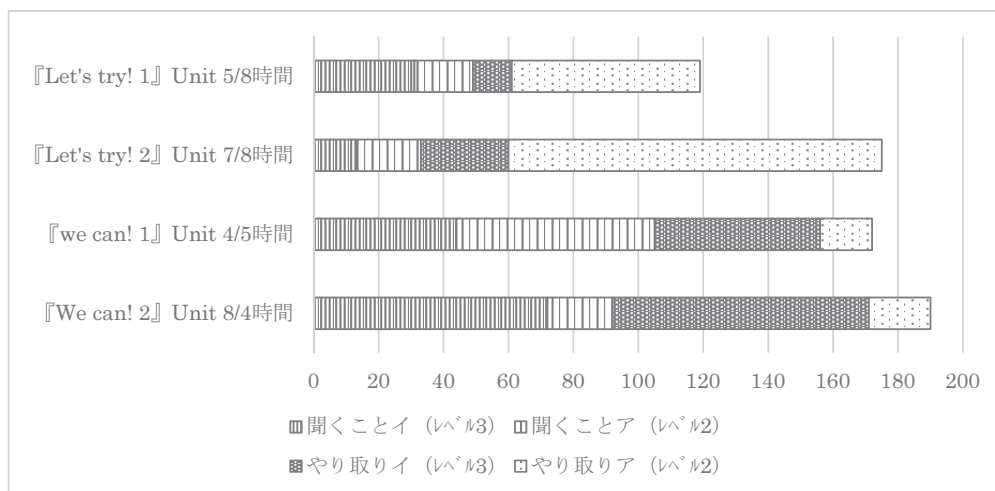


図10 各単元における目的・価値のある言語活動（レベル3とレベル2）の合計分数

学びのプロセスとしては「聞くこと」から「話すこと（やり取り）」へと移行することが推奨されているが、授業者は、主に「聞くこと」によって興味関心を喚起し言語活動へといぎなう Small Talk（レベル3）の有効性を理解し実践できるように準備すべきである。

3、4年生で、「聞くこと」「話すこと」を中心に、行きつ戻りつしながら慣れ親しむ活動を重ねてきた5、6年生においては、レベル3の活動が多くを占め、児童自身にとって行う意味・目的のあるコミュニケーション活動が十分に展開している。これらは暗記を超えた見方・考え方を働かせながらの活動と言える。

このような授業を展開させるのは、決して容易なことではないが、英語専科教員や日本人補助指導員の配置、小中の教員交流など、様々な対策が講じられている。しかし、現場の先生方に、さらなる指導スキルの向上を求めているのも事実である。

小学校英語指導の担い手についてはこれまでもたびたび話題に上ってきたが、文部科学省は主たる授業担当者はあくまでも担任であると主張している。担任だからこそできる児童の理解を前提にし、人間教育的な効果にも期待を寄せている。実際に、外国語〔活動〕に熱心に取り組む小学校教員の中には、クラス・マネジメントとの類似性を指摘する方が少なくない。すべての教育活動は、総じて「人間教育」である。外国語〔活動〕の人間教育的側面を大いに期待し、本学における学生の指導においてもその視座に立った取り組みを心掛けたい。

3. 小学校外国語教育への期待と実践において留意すべき関連事項

見方・考え方を働かせながら言語活動を行い、コミュニケーション能力を育成する小学校外国語教育には、言語としての運用能力の向上と同時に様々な期待が込められている。外国語に限らず、学習指導要領の根底にあるのは人格形成に寄与する人間教育的側面であるが、それらを包括的に捉えながら指導に当たるためには、意識すべき点が多々ある。ここでは拠り所とすべき知見を整理し、学生指導に備えたい。

3. 1 異文化理解の視点

外国語学習は、否が応でもその背景にある文化と切り離しては語ることはできない。いかなる言語においても、それぞれの文化の影響を色濃く反映しているのが言語である。様々な文化に触れると同時に自身の文化への気づきを促すことができる。

異なる文化への気づきや驚きは一種の学びの喜びをもたらす。異文化は日本国内にもあふれており、日本人同士であっても価値観の多様化を実感することが多くなった。異文化が混在する社会に身を置いているのである。いじめ問題などの関係性構築に関わる課題への対応にも、異文化理解の視点は欠かせない。

3. 2 脳科学からの示唆 ―学びの楽しさ―

小学生の多くが小学校外国語活動に対して「楽しい」と評価しているが、ここではその「楽しさ」の重要性について述べる。

脳科学者 Damasio (2000) は、知性を磨くためには無意識のうちに湧き起こる“emotion”が重要な役割を果たしているとし、この“emotion”の段階を経なければ「言語を使用しての学習」は成り立たないとしている。すなわち、我々の学習行動は“emotion”に裏づけされた時に最も効果を発揮するということになる。

EFLにある日本人英語学習にとって、教室での学習体験によって「無意識の感情」すなわち Damasio の言う“emotion”を経て興味関心を持つに至り、意味のあるコミュニケーションを楽しめるか否かが鍵を握っていることになる。Damasio の研究を筆者なりに簡単な図にしてみた (図 11)。

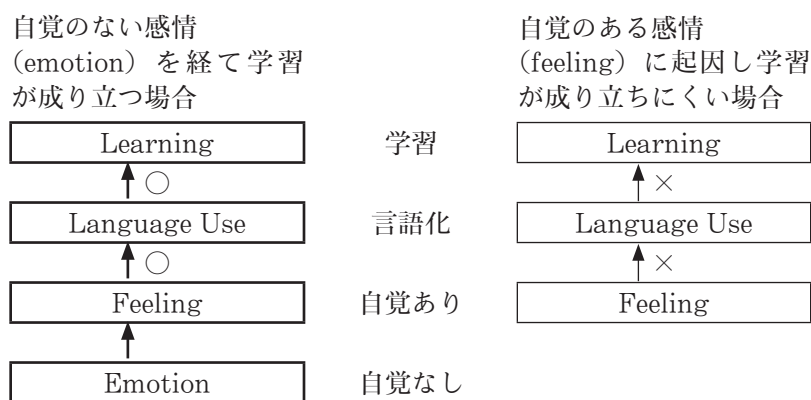


図 11 学習の成立に必要な自覚のない感情 (emotion)

この図は、「試験が近いから」という自覚に基づく“feeling”が、“emotion”を伴わない「建前の動機づけ」に終わってしまう危険性のあることを示唆している。つまり、学習者が教室での活動の中で“emotion”の段階を経ながら自身のやる気を自覚(“feel”)すれば、言語化が促され、学習が効率よく成立するというのである。小学校での外国語教育は、見事にこの条件を満たし、頭と心のスイッチが‘ON’の状態で開催・実践されることを求めている点で非常に評価できる。

茂木 (2009) は、脳科学の発達により、「意欲」を持つか否かは決して“精神論”ではなく、「未知なるもの」と遭遇する時、「既に自分の中にあるもの」をあらためて認識し直す時、あるいは共同作業などにより達成感を共有した時に、無意識のうちに高まるものだとしている。茂木が「アハ体験」と呼ぶ感情システムの活性化が生じれば、脳はそれをとても気持ちの良いことであることを知っており、再びその快感を得るために同様の行動を繰り返すよう志向するそうである。そして、より脳が喜ぶよう働く経験を積み重ねることで、人間はいくつになっても脳の機能を高めることができるというのである。

3. 3 動機づけ研究が示す「やる気」のメカニズム

1990年代に注目を集めたものに自己決定理論 (Deci & Ryan, 1985) があり、外国語学習には内発的動機づけが重要で、我が国のような EFL 環境では内発的動機づけが乏しいのも無理はないとされていた。しかし、両氏はその後、内発的動機づけと外発的動機づけの間にいくつかの動機づけの様態を設定し、内発的動機づけと外発的動機づけの状態を「連続体の両端」として捉えるモデルを提唱した (Ryan & Deci, 2002)。

EFL 環境で学ぶ日本人英語学習者にとっては、「授業」すなわち「教室での学習体験」が学習者の変容に大きく影響し、教師が仕組んだ活動であっても、それを行う価値を見出せば進んで取り組もうとするようになり、結果として内発的動機が高まるとしている。

また、Dörnyei (2003) は、授業の重要性を訴える task-processing model (タスク時の動機づけモデル) を示し、「介入としての授業」が動機づけを高める可能性を言及した。

3. 4 日本人にありがちなコミュニケーション・スタイル

これまで述べてきたように、小学校における外国語教育の目標を達成するには、人間の頭と心とからだのメカニズムと発達のプロセスに配慮した指導方法が良い。しかし、日本人の持つ対人関係の特徴と価値観が意味のあるコミュニケーションを展開する際にはブレーキとなることもある。

児童を含むほとんどの日本人が慣れ親しみ当然のことと捉えている学習方法やコミュニケーションの在り方について見つめ直し、新たな学習観・指導観を受け入れようとする姿勢が求められる。表7は、英語と日本語の違いを表したものである。知識としてこれらの差異を知ることも一助となる。

表7 文化的に見たコミュニケーションのあり方の違い (木下, 2001)

日本語	vague (曖昧な)、indecisive (どっちつかずの)、indirect (間接的な)、reserved (控えめな) など
英語	clear (明瞭な)、decisive (決定的な)、direct (直接的な)、straightforward (率直な) など

筆者は、日本語による Quick Response などの即答練習を取り入れてきたが、簡潔で即時的な回答を行う練習が、意思の疎通にプラスに作用することを確認している。

4. 進捗状況の把握と検証の必要性

前述のとおり、小学校外国語教育には大きな可能性が秘められている。しかしながら、移行期1年目の現在、実践のための諸条件は十分とは言えず、文部科学省、教育委員会、地域、学校等の様々な単位で行われている施策も試験的なものである。

2020年度には完全実施となるが、今後しばらくは、担当者、単元計画、学習指導案、

教材・教具、教室環境、評価など小学校英語教育を取り巻く様々な点に動きがあるだろう。それらを注視し、情報を収集し、学生の指導に反映させなければならない。

4. 1 授業担当者

近隣の小学校への授業見学や研修会、学会等で得られる情報から整理すると、今年の入ってから授業担当者には変化が見られる。

- ・担任（単独）
- ・ALT とのチームティーチング
- ・JLT（日本人補助教員）または GET（人材活動）とのチームティーチング
- ・専科教員とのチームティーチング
- ・近隣の中学校英語教員とのチームティーチング

5、6年生で週2時間の場合、学校により事情は様々である。例えば、

- ・担任（単独） — ALT との TT — 担任（単独） — GET との TT
- ・担任（単独） — ALT との TT — 担任（単独） — 専科教員との TT
- ・担任（単独） — ALT との TT — 担任（単独） — 担任（単独）
- ・すべて中学校英語教員との TT
- ・すべて JLT（日本人補助教員）との TT

学生は各科目の教育法を学ぶが、これほどの多種多様な授業形態が想定される科目は外国語のみである。授業担当者の如何により、英語専科ではない担任教師に求められる役割も変わる。いわゆる‘丸投げ’‘静観’は以ての外だが‘分業’を決め込むことなく、授業全体の目標や指導計画を包括的に捉え、授業をコーディネートする力を伸ばしていくよう助言したい。

4. 2 教材と教具

移行期教材『Let's try!』『We can!』とそのデジタル教材の内容について、現場の先生方に感想を伺った。しかし、2018年度は3年生、4年生、5年生が同時に外国語活動を開始したことになる。5年生では『Hi, friends!』を中心に授業を進めているという話をよく聞く。新教材より旧教材の方がデジタル教材の出来が良いと感想を漏らす先生もおられる。話題になっている Small Talk については、ハードルの高さを感じている方、英語力の向上を目指していても研修時間の確保が難しいと漏らす方が多いようだ。実行可能な指導方針、評価方法を示してもらい、見通しを持って教育に当たりたいなどの声も聞かれた。

4. 3 コミュニケーションの「意味」のレベル

前年度までは、チャンツやゲームが活動の中心だった傾向があり、それらについて

は先生方のご努力により指導力は向上している。しかし、コア・カリキュラムが示され、児童期の言語習得の特徴に即した指導すなわち見方・考え方を働かせながら真正性を保ちつつ「聞くこと」「話すこと」を行うという要求が突き付けられている。

その一つが Small Talk である。その狙いと効力については異論はないが、指導スキルの養成には、計画性も財政的支援も不十分と言わざるを得ない。

山田（2018）は、「話すこと（やり取り）」の言語活動を行なう際には、教員が英語を使って自分のことを話したり児童生徒とやり取りをしたりすることで意味のあるやり取りを行い、児童生徒の意識をその内容に向かわせた上で言語活動に取り組みせることが重要であると述べている。

さらに、単元における Small Talk からやり取りへの指導過程として、以下のような指導過程を推奨し、留意点として、①年間を通じて即興性を伴う言語活動を継続的に行うこと、②教員が英語を使って自分のことを話したり児童とやり取りをしたりした上で、やり取りの言語活動に取り組みせることを挙げている。

表 8 Small Talk からやり取りへの望ましい指導過程（山田、2018）

	手順	教師の指導	児童の活動
1	教師と児童のやり取り	使用させたい表現への気づきを促す	気づく
2	児童と児童のやり取り(1)	内容に意識を向けて対話させる	やってみる
3	指導すべき内容を指導	対話の内容や言語表見の確認・想起	発想する
4	児童と児童のやり取り(2)	何人かと内容と表現の両方を意識しながら対話させる	意識して使う

4. 4 評価方法

つい先日、文部科学省の教科調査官を招いて静岡市で行われた研修会でも「評価」については「まだお示しできる段階ではない」とのことだった。教科となり、2020年度には成績表に評価が明記され、児童によっては中学進学に影響することになる。

算数や漢字テストのような数値による評価は適さない。いわゆるパフォーマンスを効率的にかつ妥当に評価し、児童・保護者・指導者の三者にとって納得のいくものを構築していくことが望まれる。

5. まとめに代えて ～実践研究の必要性和検証方法の検討～

筆者自身の戒めとして以下の項目を挙げておく。

- (1) 進行中の英語教育改革の動きを注視し、可能な限り小学校を訪問し実践状況を見学させていただくとともに、現場の先生方との関係性の構築に努める。
- (2) 文部科学省ならびに各種学会・研修会より情報を収集し、外国語〔活動〕の担当者として求められる小学校教員像を把握し、「小学校英語指導Ⅰ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ（新課程）」「英語科教育法（新課程）」の授業内容に反映させる（具体的な指導方針については、『教育学部紀要』の報告部門に投稿）。

- (3) 小中の連携も視野に、教育学部生と現職の小中学校の教員がともに集い学び合える研修の機会を設ける（すでに実践中）。小学校現場での実践状況の観察、着目したい点に関するデータ収集ならびにその分析・検証を行うなど、共同研究の可能性も探っていきたい。
- (4) 在学生さらには現職の小学校教員である卒業生に対し、小学校における英語指導法を中心として支援ネットワークの構築を目指す。
- (5) 地域貢献を兼ねた「子ども英語活動」を継続する。

参考文献

- Damasio, A. (2000). *The feeling of what happens*. New York: Mariner Books.
- Deci, E. L., & R. M. Ryan (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum.
- Dörnyei, Z. (2003). Attitudes, orientations, and motivations in language learning: Advances in theory, research, and applications. *Language Learning*, 53, supplement, 3-32.
- 木下和好 (2001). 『清書がわかれば英語がわかる!』 pp.27～28 東京：ダイヤモンド社
- 三浦 孝 (2003). 「日本の対人コミュニケーション状況と英語教育の教育的使命」『中部地区英語教育学会紀要』第33号 pp.65-72
- 茂木健一郎 (2009) 『感動する脳』東京：PHP 文庫
- 文部科学省 (2017). 「小学校外国語活動・外国語研究ガイドブック」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2002). Overview of self-determination theory: An organismic dialectical perspective. In E. L. Deci & R. M. Ryan (Eds.), *Handbook of self-determination research* (pp. 3-33). New York: University of Rochester Press.
- 山田誠志 (2018) 「中学校との円滑な接続を図る小学校高学年の外国語(英語)教育」『日本児童英語教育学会第39回全国大会資料集』 p.9-12

